

事例勉強会の実施報告

令和5年12月に実施した事例勉強会について、以下のとおり報告する。前回に引き続き、障がい当事者部会員を交えて意見交換を行うことで、多角的な視点で事例を検討し、差別や虐待に対する対応力の向上を図った。

1 実施日等

開催日：令和5年12月19日（火）

参加者数：8名（権利擁護部会員6名、障がい当事者部会員2名）

2 事例検討事項（2件）

※個人情報保護の観点から、事例の詳細は省略

事例 タイトル	知的障がい者の店舗トラブル（差別事例）
問題 (課題)	知的障がい者が商品へのこだわりから、店舗の店員とトラブルになってしまった。
検討 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・発生要因の整理。 ・今後も本人が安心して地域で生活するためには、一人一人がどのように行動すればよかったのか。
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に付き添っていたヘルパーが、ヘルパー事業所に相談して応援を呼ぶなどの対応ができればよかった。 ・こうした事態を想定し、事前に本人、保護者、ヘルパーとで対応を考えていればよかった。 ・同じような事例を対応した。保護者や支援者がお店に出向き、本人の障がい特性を説明し、お店の利用料を前払いするなど、本人が安心して利用できるように対応を工夫した。 ・店舗でトラブルを起こすたびに、そのお店へ行けなくなってしまうのでは、本人が利用できるお店がなくなってしまう。「また来てください」と言ってもらえる関係性づくりが必要。 ・普段から本人の支援をしている人が間に入ることが有効的。

事例 タイトル	ネグレクトの可能性がある家庭の分離のタイミング（虐待事例）
問題 (課題)	養護者に養育能力がなく、同居生活にリスクがあるが、障がい特性上本人の意向を確認できないため、分離の判断が困難である。
検討 ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・養護者を説得するポイント ・養護者との同居を継続する上で、現状の支援体制のほかにできることはないか。
参加者の 主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が元気なうちは、子離れができない、施設入所に踏み切れない保護者は多い。保護者の気持ちにテコ入れが必要。同じ保護者として相談を受けたり、後押しをした経験がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・利用できるサービスはすべて利用している。サービスをうまく使ってもらえるように保護者への働きかけが必要。 ・これまで保護者が頑張って本人を介助してきた。その頑張りをねぎらう関りが重要。 ・保護者に介護サービスを入れる、保護者が気軽に会いに行ける距離の施設を探す、介護保険と障がい福祉サービスの入居施設が併設されている施設を探すなどのアプローチがある。 ・保護者が後見人の場合、家族としての愛情面と、本人の利益を客観的に判断する視点の両立が求められる。
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 参加者の感想

- ・当事者の方や、保護者からの話を聞くことができて勉強になった。
- ・事例のような、つらい思いをした人、支援の介入が難しい家庭は他にもあると思う。今後の対応に活かすためにも、事例の共有は大切だと感じた。
- ・保護者同士のネットワークや、ピアカウンセリングなどのつながりを持つことや、そこからの働きかけが有効だと感じた。
- ・当事者や保護者の声を聞き続けること、その中で、SOS をすぐにキャッチし、対応できる準備をしておくことが大切。
- ・事業所では、在宅から施設入所に切り替えた保護者から、その思いや経緯を聞き、同じように悩んでいる保護者に伝えてよいか確認している。1つの事例で終わらず、次につなげていくことが大事。また、その際にはこれまで親御さんが十分頑張ってきたことをねぎらい、施設入所がプラスにとらえられるように関わっている。
- ・特別支援学校の高等部では、面談の際に相談支援事業所とつながること、在学中に短期入所を利用することを伝えている。親御さんによっては、支援を受けることを遠慮する方もいるが、支援の利用によって、本人の新しい出会いや、成長があることを伝え、前向きにとらえてもらえるように話している。今後もこうした関りを続けていきたい。

4 事務局（障がい政策課）の感想

- ・明確な正解がない中で、関係者一人一人が知恵を絞って対応している。今後も当事者、保護者、関係者の声を聞きながら支援をしていきたい。

5 次年度に向けての検討内容（事務局案）

令和5年度は、障がい当事者部会員にもご出席いただくことで、多角的な視点から事例を討議することができた。令和6年度においても、引き続き他部会員と連携することで、地域全体の対応力の向上を図っていきたい。